

定置網漁業の資源管理に関する研究

(複合的資源管理型漁業促進対策事業)

若林英人

1 研究目的

大型定置網漁業を資源管理型漁業へ転換させるための基礎資料を得ることを目的として島根県西部(石見地区)の定置網漁業の操業実態および経営概要調査を行った。なお、結果の詳細は「平成11年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書」に報告した。

2 研究方法

(1) 経営調査

石見地区における大型および小型定置網23経営体のうち9経営体について平成10、11年の生産金額・操業人員・乗組員1人当りの生産金額を網規模(設置水深)から求めた標準値¹⁾と比較した。

(2) 投棄魚調査

石見地区の大型定置2経営体を対象に平成10年4月から平成11年6月にかけて、月1回、投棄魚および出荷魚の測定を行った。

3 研究結果

(1) 経営調査

- ・操業率の平均は約70%であった。
- ・生産金額および乗組員1人当りの生産金額は標準値の40~110%であった。一部の経営体は2ヶ年とも標準値の60%以下であり、抜本的な経営改善が必要と思われる。
- ・操業人員は8~16人でほぼ標準値ではあったが、これからの省人化の目安として少ない経営体で1名、多い経営体では5~6名の減員を検討する必要がある。
- ・経費のうち人件費が大半を占めていることから、各経営体とも省人化の必要性は認識している。海上での漁労作業については箱網の改良(浮き式+底建等の併用)やリング方式を導入することで省人化は可能ではあるが、網替作業があるため人数を減らすことが出来ない状況にある。

操業率	: 水揚げ日数 / 設置期間
生産金額の標準値	: 身網設置水深(尋)の二乗×10(万円)
操業人員の標準値	: 身網設置水深(尋)÷2.5(人)
乗組員1人当りの生産金額	: 生産金額の標準値÷操業人員の標準値(万円)

(2) 投棄魚調査

石見西部地区においては箱網の目合を11節とする自主規制があり、調査を行った大型定置の箱網は目合9~11節であった。確認された投棄魚は約80種で、そのうちカタクチイワシ、ウルメイワシ、イサキ、マダイ、マサバ、スルメイカ、ヤリイカといった主要魚種の幼稚魚の投棄量が多くなっている。今後は先進県の取り組み等の情報収集をおこないながら小型魚の混獲回避・軽減策を検討する必要がある。

4 文献

- 1) 岩田圭司: 定置網漁業経営の改善についての提言. ていち, 第89号, 80-111(1996).